
ケプラー使い方マニュアル

JANet School of Astrology 編

ケプラー使い方マニュアル・基礎編

<ケプラーの起動>

デスクトップ上のアイコンをクリックするか、あるいは、スタートメニューの中から選択することで起動できます。

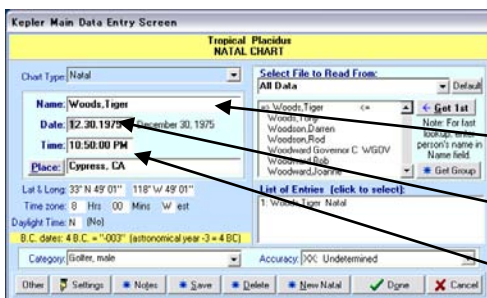
ケプラーを起動すると右のようなオープニング画面が現れます。

この画面からは、ホロスコープに関する主な作業を全般的に行う「メイン画面 ([Main Screen])」のほか、各種設定やオプション、その他の付属機能と呼び出すことができます。



<まず、ネイタルチャートを作ってみましょう>

1. ツールバー左上の[Start] (あるいは、[Main Screen]) をクリックし、[New Lists of Charts (New Session)] をクリックすると次のようなデータエントリー画面が表示されます。



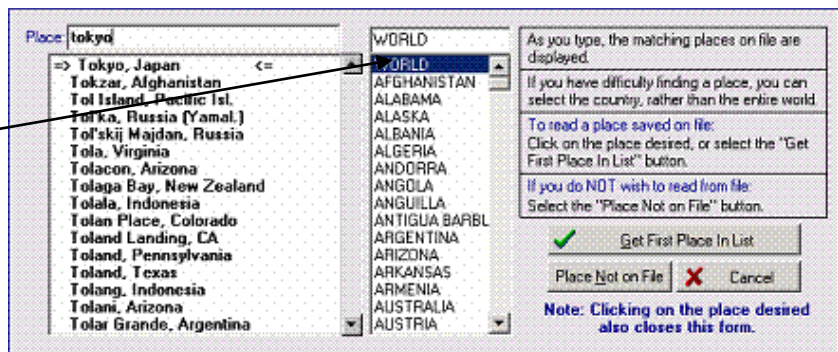
2. データエントリー画面に作りたいホロスコープのデータを入力します。

名前 (Name) をアルファベットで入力
姓を先にし、カンマを入れて入力すると後で探しやすい。
生年月日 (Date) を入力
月、日、年の順に数字のみを入力していく (カスタマイズ可)。
生まれた時刻 (Time) を入力
1 2 時間制で AM/PM まで入力 (カスタマイズ可)。

生まれた場所 (Place) を入力

地名 (ローマ字) の最初の文字をクリックすると右のような入力画面が現れる。続けてスペルを入力していきリストの中に適切なものが現れたらそれをクリックし選択。

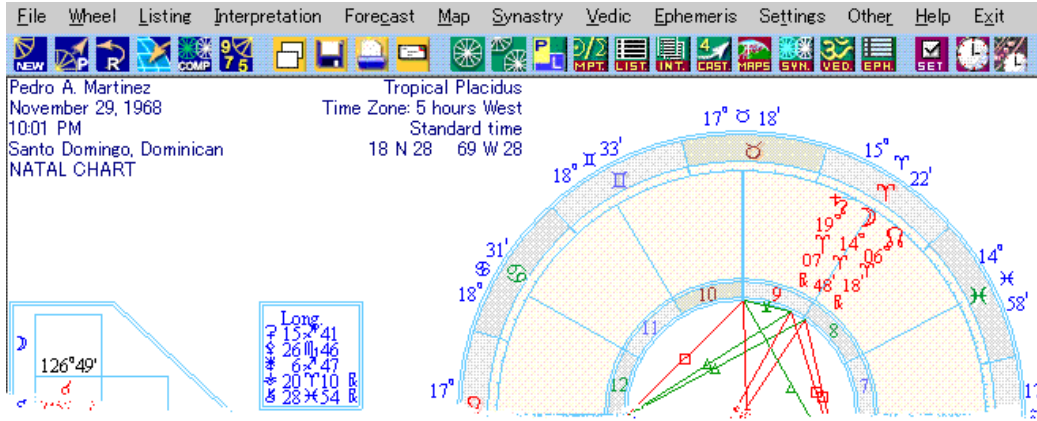
なお、このリストの中から地域を選択すればその中でのみ検索される。





4. データ入力ウインドウ画面の下段に並んだボタン右端の **Done** をクリックしてチャートを描きます。データをセーブするかどうかのメッセージボックスが表示された場合は、セーブしておくと次回からはデータの詳細を入力せずにリストから呼び出すことができます。

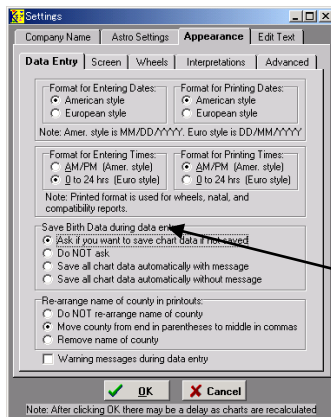
5. チャートが表示されます。この画面をメイン画面 ([Main Screen]) と呼びます。



<カスタマイズ>

入力の方法や天体の記号などの一部にはいくつかの選択肢から選べるものがあります。この選択は、オープニング画面のカスタマイズから行うことができます。

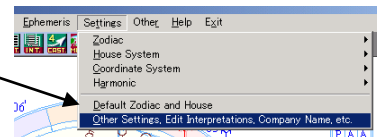
カスタマイズは、プログラム全般的にわたって有効になる設定を行うことができ、印刷物に入れることのできる会社名や住所の入力や天王星、冥王星、リリスなどの記号の種類、日付や時間などの入力方法などを選択することができます。



左のような画面から設定することができますが、設定の詳細はマニュアルなどを参考にしてください。

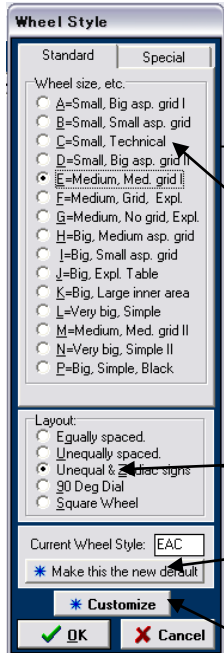
なお、入力の際の時間のフォーマットは[Appearance][Data Entry]のこの項目により12時間制 (AM/PMを入力する必要) と24時間制の選択を行うことができます。

また、カスタマイズはメイン画面の[Settings]メニューから開くこともできます。

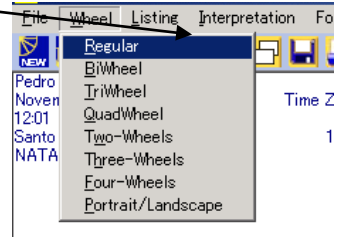


<チャート表示を自分の好みに合わせて設定する（レギュラーホイールスタイル）>

チャートは、自分の好みに合わせて表示を設定することができます。



まず、[Wheel]メニューから[Regular]を選びます。



すると、左図のようなホイールスタイルの選択ウィンドウが現れます。

一番上の[Wheel size etc.]の中から好みのホイールの大きさやアスペクトグリッドのタイプの組み合わせを選択してください。

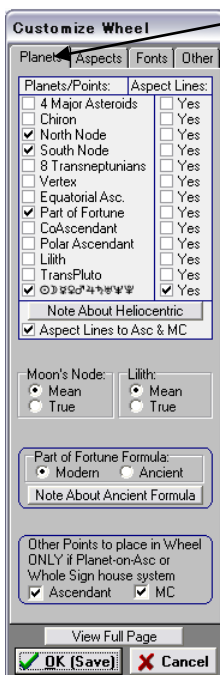
このとき、[Special]をクリックすると特別な選択肢が現れます。例えば、その中の[ART WHEEL]を選択すると美しい背景上にホロスコープを表示/印刷することができます。

また、[Layout]では、ハウスを等しい幅で表示させるか、傾きのある形で表示させるか、あるいは、ゾディアックもいっしょに表示させるかななどの選択もできます。

設定の最後に「Make this the new default」を押しておく次回からはその設定がデフォルトで選択されます。

なお、表示する天体やその他の感受点の種類、アスペクトの種類やオーブの設定、度数の表示のしかたなどの詳細な設定はカスタマイズにより行うことができます。

[Customize] ボタンをクリックすると新たにカスタマイズウィンドウが現れます。



[Planets]メニューでは、追加する天体やその他の感受点の種類とアスペクトラインを表示するかどうかを選択できます。また、ノードやリリス、パートオブフォーチュンの計算方法、特殊なホイールを選んだ際のアセンドントやMCの表示の有無などを選択することができます。

[Aspects]メニューでは、さまざまな種類のアスペクト設定のセット（[Aspect Set]）の中から適切なものを選択することができます。また、それぞれのセットの詳細は、カスタマイズボタンにより細かく設定することができます。

カスタマイズの中では、表示するアスペクトの種類、角度、オーブ（天体ごとに変更も可能）、ラインの色や種類などを設定することができます。

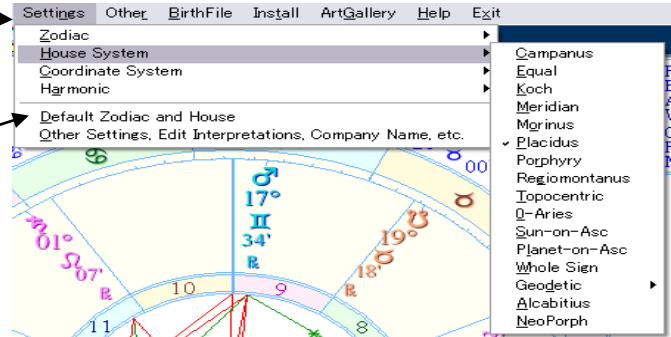
また、[Other]メニューでは、天体の度数の表示のしかたを設定することができます。



なお、使用するゾディアックの種類（トロピカル／サイデリアル）、ハウスシステムの種類、特殊な計算方法（ヘリオセントリック、ドラコニックなど）、ハーモニックチャートの作成などはメイン画面の[Settings]メニューから直接設定できます。

ここでの設定は、それぞれのチャートのエントリーについて設定でき、エントリーを切り換えても設定が保持されます。

なお、[Default Zodiac and House]メニューにより、新たにエントリーを追加したときに最初に選択されるゾディアックやハウスの種類を選択することができます。



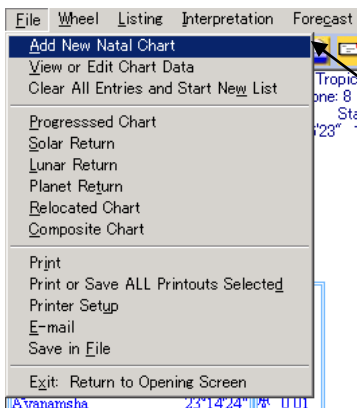
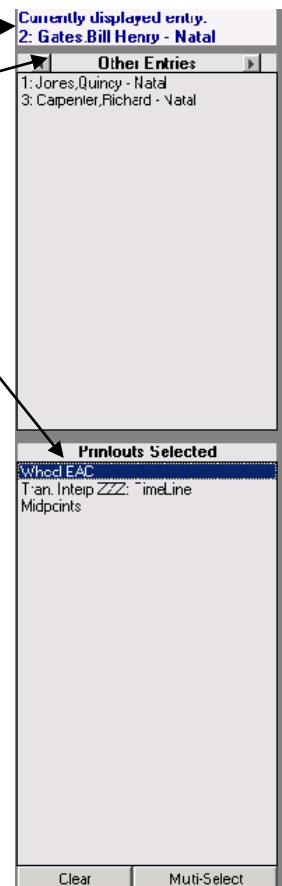
<ケプラーのチャート表示のしくみについて>

まず、「エントリー」と「プリントアウト」という概念を把握してください。エントリーとは、さまざまな計算や表示の元になる入力データのの一つ一つをさします。そして、プリントアウトはそれらを特定の方法で計算し表示したものです（通常のチャートもその中のひとつです）。

メイン画面の右端に現在表示されているエントリーが示されているボックスがあります（[Currently displayed entry]）。

このボックスの中には、さらに、すでに計算しているが画面には表示されていないエントリーのリストである[Other Entries]と、あるエントリーに関するいろいろなプリントアウト（表示）がリストしてある[Printouts Selected]という項目があります。

これらのリストでは、相性などでのチャートの比較、トランジット、プログレス用のバイホイール（2重円）、トライホイール（3重円）作成など、さまざまな操作において基本になるエントリー（入力データ）やプリントアウト（表示）の管理や切り換えを行います。



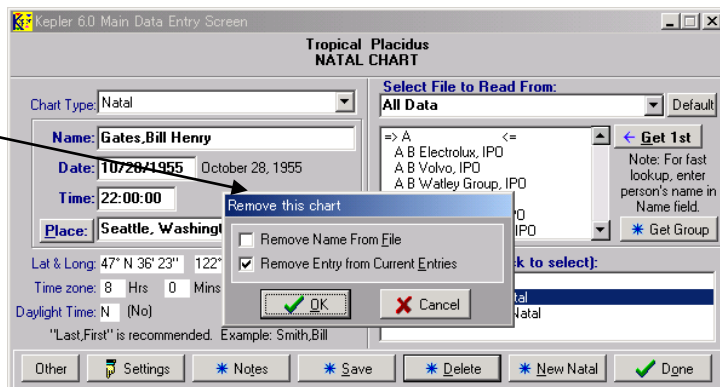
メイン画面から新たなエントリーを追加するには、ファイルメニューの中から[Add New Natal Chart]を選択します。すると、最初にチャートを作成したときのようなデータエントリー画面が現れます。始めのときと同様な手順でデータの詳細を入力します。

こうして新たに追加したエントリーはメイン画面に表示され、今まで表示されていたエントリーは[Other Entries]のリストの中に加えられます。

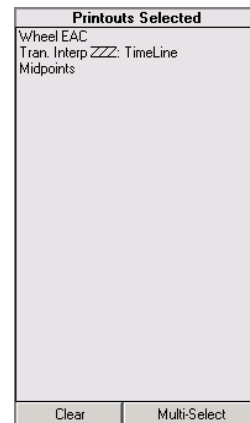
ファイルメニューからは、また、あるネイタルチャートをもとにプログレスやソーラーリターン、ルナリターン、その他の天体のリターン、リロケートチャート、コンポジットチャートなどを作ることができます。こうして作成したデータは、新たなエントリーとして加えられます。

表示されていないエントリーを呼び出すには、[Other Entries]のリストの中から呼び出したいエントリーをクリックします。また、間違っ作成したり必要がなくなったなどでエントリーのリストから外したい場合は、まず、[Other Entries]のリストの中からクリックし、メイン画面に表示させた状態でファイルメニューから[View or Edit Chart Data]を選択します。すると、データ入力画面が現れそのデータが表示されます。ここで、[Delete]ボタンを押すと[Remove this chart]というメッセージボックスが現れます。ここで、[Remove Entry from Current Entries]のみにチェックが入った状態で[OK]を押すとエントリーリストの中から削除されます。

※[Remove Name From File]にチェックを入れるとファイル自体から削除されてしまうので注意してください。



ひとつのエントリーは、いろいろなかたちで表示をすることができます。それらのひとつひとつの表示は「プリントアウト」としてリストに加えられます。通常のホロスコープは、リストには「Wheel1」としてリストされます。アルファベット3文字により表示スタイルが示されています。ホイールメニューからレギュラーを選び、別なスタイルを選択すると、このプリントアウトのリストに新たに「Wheel1」としてそのスタイルを表すアルファベットとともに加えられます。その他のリスト表示や時期表示、解釈表示などもすべて表示させるたびにこのリストに加えられ、それらをクリックすることによりインスタントに呼び出すことができます。また、必要のなくなったプリントアウトは、右クリックによりリストから削除することができます。



これらの基本的な操作をマスターすれば、ケプラーのさまざまな機能や表示をうまく切り換えながら利用できるようになります。

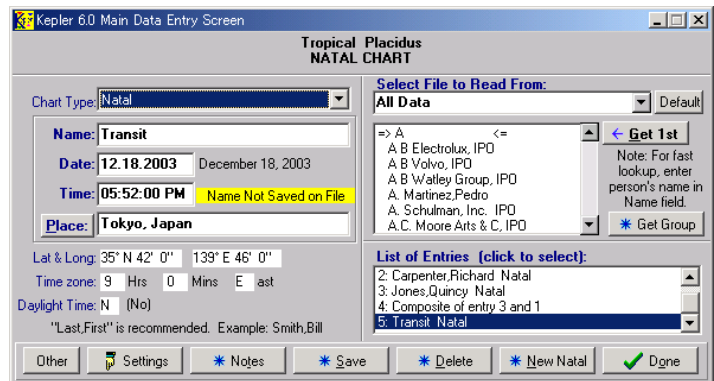
ケプラー使い方マニュアル・応用編

<時期予測に関するテクニック>

時期を検討するには、基本的なネイタルチャートにトランジットやプログレスなどのチャートを重ねて表示したり、アスペクトの形成されるタイミングを見つけたりします。ここでは、ケプラープログラムを使いそれらを実現する方法を簡単に説明します。

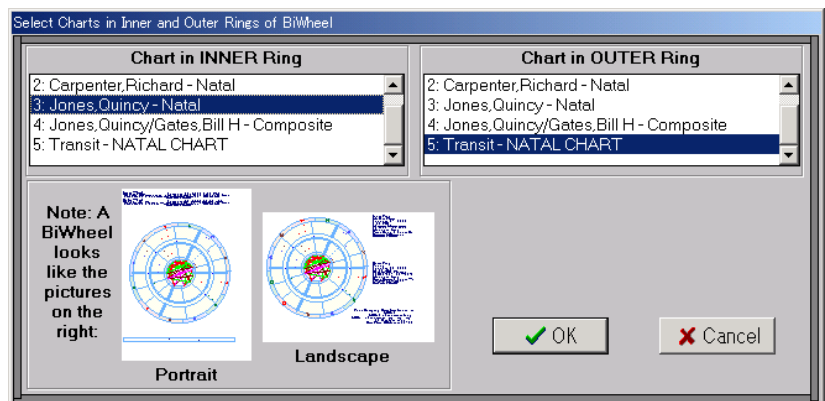
<トランジットとネイタルのバイホイールを作ろう>

まず、基本編でのやり方に従い、元になるネイタルチャートを作成、あるいはデータから呼び込みます。現在のトランジットはファイルメニューの[Current Transit Chart(Quick Select)]で簡単に作成できます。デフォルトの場所は[Change Current Transit Chart Place]で設定できます。特定の日を指定してトランジットチャートを作成するには、トランジットを解釈したい時期の日付で新しいエントリーを作ります。ファイルメニューから[Add New Natal Chart]を選択すると、そのときの日付と時間が自動的に入力されているので、必要であれば変更し、「Transit」などの名前を付けて新たなエントリーを作りましょう。一時的なデータなのでファイルへ保存しなくてもかまわないでしょう（表示は問題なく行うことができます）。なお、後に残しておきたい場合には、適切な名前を付けて保存しておいてください。



すると、トランジットのチャートが表示され、先ほど作成したネイタルチャートは[Other Entries]のリストの中に移ります。こうして、2つのエントリーが用意できたら、ホイールメニューの中のバイホイールを選びます。すると、右図のような設定ボックスが現れます。

このとき、バイホイールの内側に表示したいエントリーを左側のリストから、そして、外側に表示したいエントリーを右側のリストから選択してください。ここで、[OK]を押すと表示のスタイルの設定ボックスが表示されます。

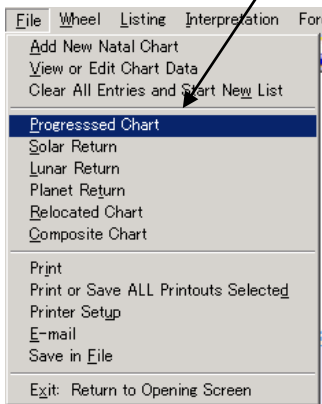


設定ボックスでは、大きな円表示か小さな円にアスペクトグリッドを表示させるかの選択やハウス

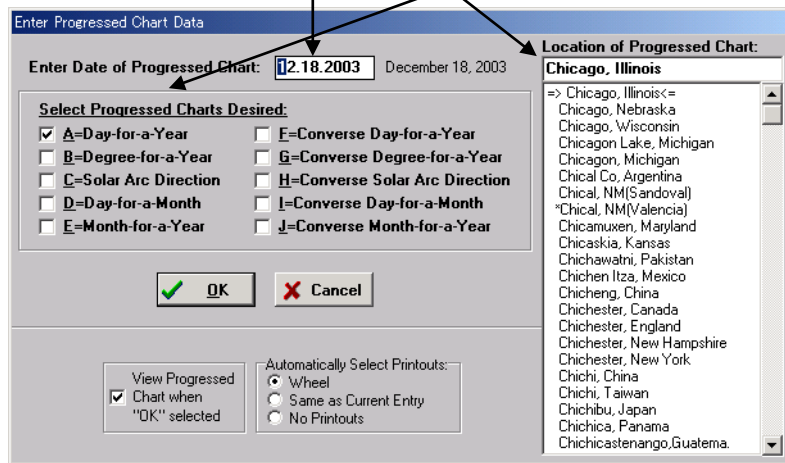
の傾きやサイン付の表示などを好みに合わせて選択できます。また、「カスタマイズ」により、表示する天体やアスペクト、オーブなどを設定することができます。これらの設定を終え、[OK]ボタンを押すとトランジットとネイタルのバイホイールチャートが表示されます。

<プロGRESSを加えてトライホイールを作ろう>

では、プロGRESSチャートも加えてみましょう。まずは、プロGRESSのエントリーを作ります。プロGRESSを計算する元になるネイタルのエントリーを選択し、表示させます。次に、ファイルメニューから[Progressed Chart]を選択します。



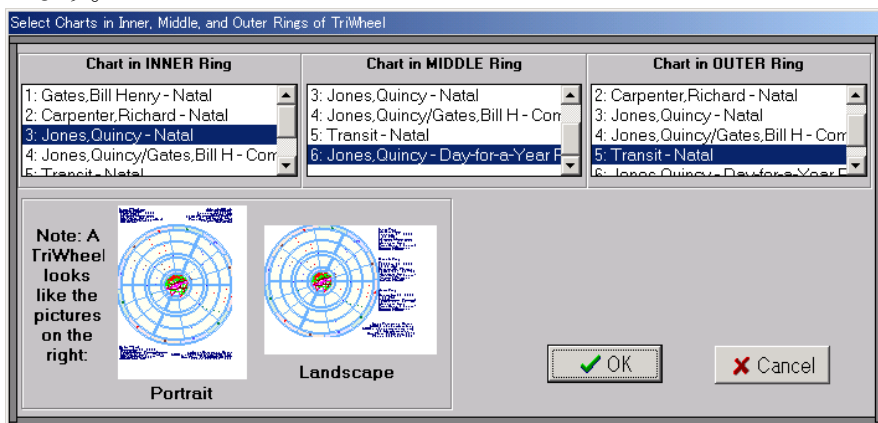
すると、プロGRESSさせたい日付や場所、そして、プロGRESSのタイプを選択するボックスが現れます。



これらを適切に設定し、[OK]を押すと新たにプロGRESSのエントリーが追加されます。

ここから先ほどのバイホイールの手順をトランジットの代わりにプロGRESSで行えば、プロGRESSとネイタルのバイホイールを作ることができます。さらに、ここでは、ホイールメニューの中から[TriWheel]を選択してみましょう。

先ほどのような設定ボックスが現れますが、ここでは内側と外側だけでなく、真ん中に表示させたいエントリーを選択できるようになっています。通常は、内側にネイタル、真ん中にプロGRESS、外側にトランジットを表示させると見やすいでしょう。[OK]を押すと表示のスタイルの設定がありますが、バイホイールとほとんど同じ内容の設定ができます。



<リターンチャートについて>

時期予測では、リターンチャートも利用されますが、ケプラーではすべての天体のリターンチャートを簡単に計算することができます。元になるネイタルエントリーを選択し、ファイルメニューから望みのリターンを選択してください。

<タイムラインの利用>

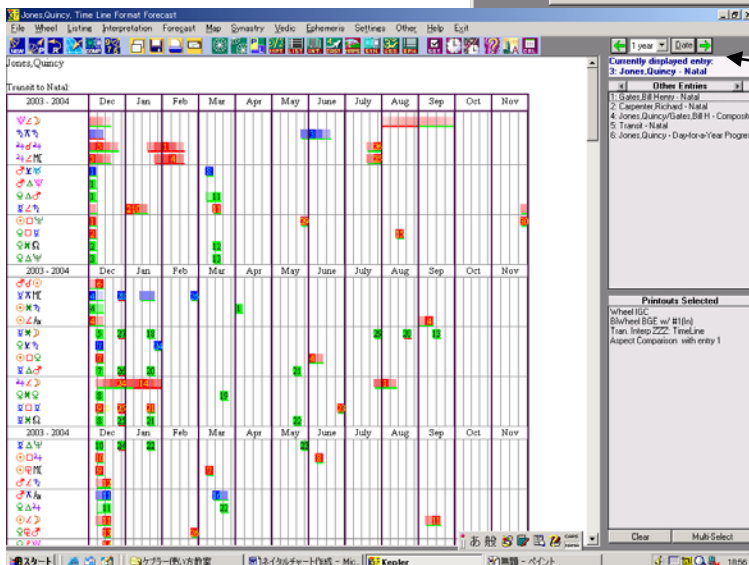
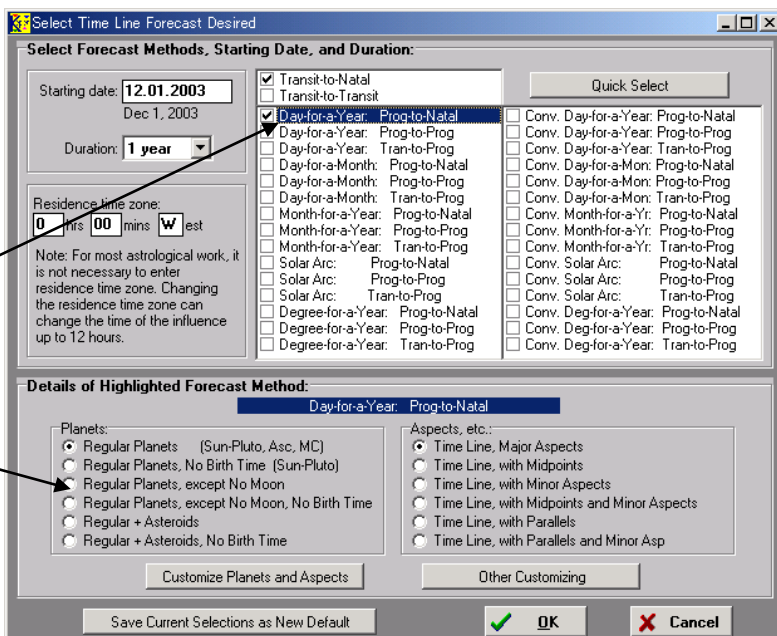
時期予測の際に、ネイタルの天体とプログレス、あるいは、トランジットの天体の間にできるアスペクトのタイミングを計算しながら解釈していきます。ケプラーでは、それらの影響のある時期を「タイムライン」機能によりグラフィカルに表示することができます。これを利用するにはフォーキャストメニューの中から[Time Line Format]を選択してください。

まず、表示を開始する日付と表示期間を入力します。

そして、表示したいアスペクトの種類を選びチェックマークをつけます。なお、それぞれを選択する際に項目が反転表示になっている状態でそれらに対応する詳細設定を下の枠内で行います。

それぞれのボタンによりさらに細かい設定を行うこともできます。

これらの設定が終わったら[OK]を押すと時期のタイムライン表示が現れます(下)。



このとき、画面の右上にある左右の矢印により期間を変更することができます。また、[Dates]ボタンにより、日付を直接入力し、表示を切り換えることもできます。

色分けやオーブの表示などによりうまく利用すれば、直観的にすばやく重要な時期の表示を探ることができるでしょう。

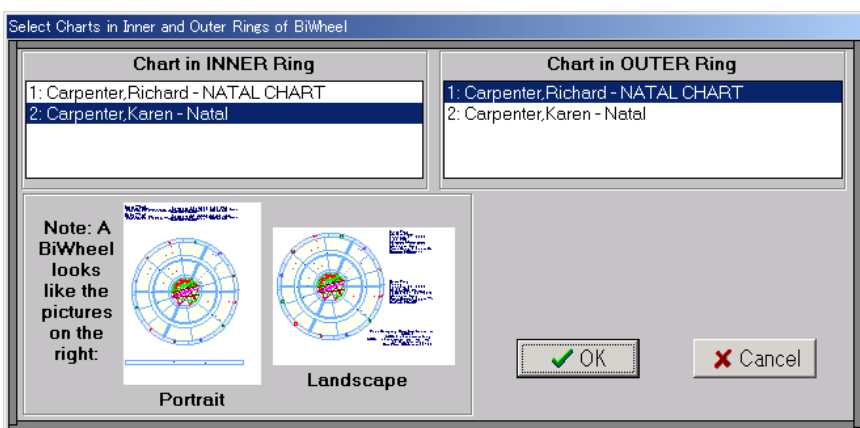
<相性に関するテクニック>

相性を検討するには、検討したい2人の基本的なネイタルチャートをバイホイールにして重ね合わせたり、2つのチャートの間に見えるアスペクトを比較したり、合成してコンポジットチャートと呼ばれるチャートを作成したりします。ここでは、ケプラープログラムを使いそれらを実現する方法を簡単に説明します。

<バイホイールの作成>

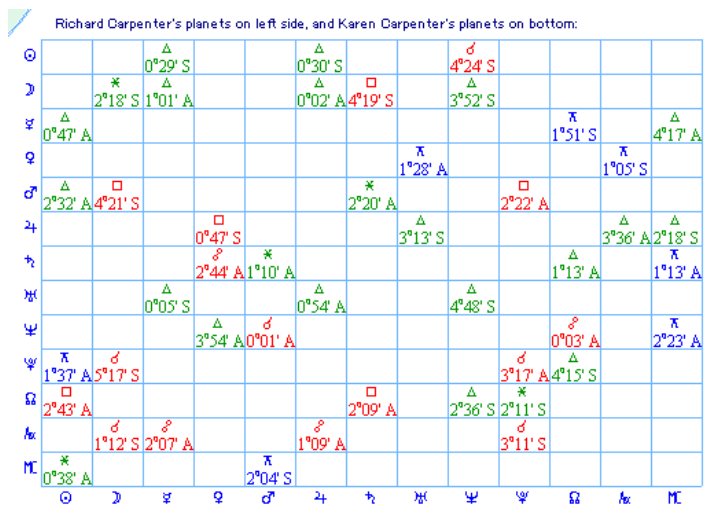
これは、基本的にトランジットとネイタルで作成した手順とまったく同様です。まず、基本編でのやり方に従い、2人の個々のネイタルチャートを作成します。

すると、作成したネイタルチャートは先に作成したものは[Other Entries]にリストされ、後に作成したものは表示に現れています。こうして、2つのエントリーが用意できたら、ホイールメニューの中のバイホイールを選びます。すると、右図のような設定ボックスが現れます。



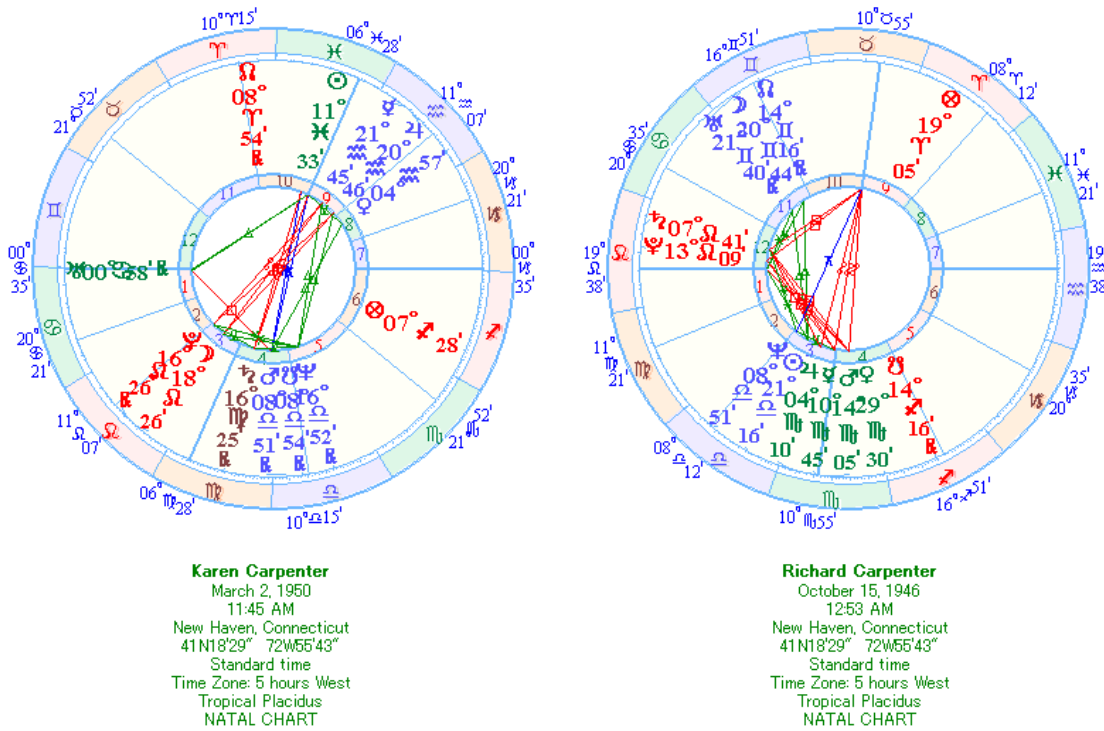
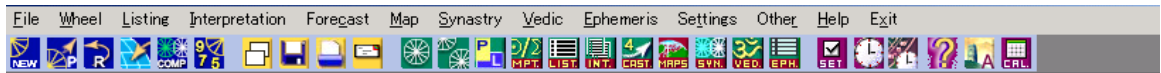
このとき、バイホイールの内側に表示したいエントリーを左側のリストから、そして、外側に表示したいエントリーを右側のリストから選択してください。ここで、[OK]を押すと表示のスタイルの設定ボックスが表示されます。

設定ボックスでは、大きな円表示か小さな円にアスペクトグリッドを表示させるかの選択やハウスの傾きやサイン付の表示などを好みに合わせて選択できます。とくに相性の検討では、アスペクトグリッド（右図）を利用すると便利でしょう。また、「カスタマイズ」により、表示する天体やアスペクト、オーブなどを設定することができます。これらの設定を終え、[OK]ボタンを押すとトランジットとネイタルのバイホイールチャートが表示されます。アスペクトグリッドでは、内側円として選択した人が横列、外側円が縦列に表示されます。

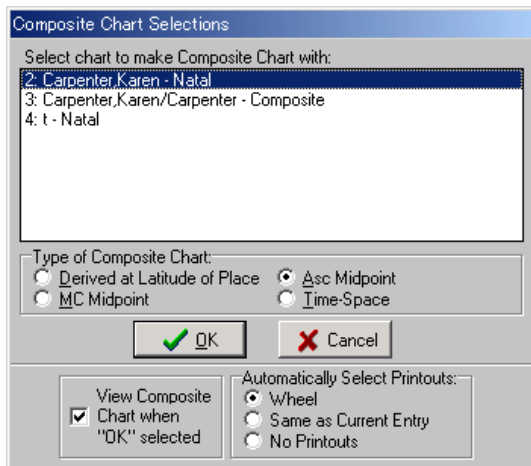


< 2人のチャートを並べて表示する >

相性を検討するときには、2人のチャートを並べて表示すると便利なこともあります。このような場合には、ホイールメニューの中の[Two-Wheels]を利用します。



< コンポジットチャートの作成 >



2人のチャートをそれぞれの天体のミッドポイントを利用して合成したチャートをコンポジットチャートと呼びます。この場合も、まず、基本となる2人のデータのエントリーを作ります。次にどちらか一人のエントリーを表示させておき、ファイルメニューから[Composit Chart]を選択します。すると、左図のような設定ボックスが現れます。一番上のリストから、コンポジットを作りたい相手のエントリーを選択します。コンポジットチャートのタイプは4つあります。ハウスを計算する方法で場所からアセンダント位置を割り出すか、ASC/MCのどちらを優先するか、あるいは、天体のミッドポイントではなく出生の時間空間ミッドポイントを利用するかの設定をすることが

できます。[OK]をクリックするとチャートが計算、表示されます。

